



さわやか八中

H28 学校だより No.1
平成 28 年 4 月 8 日
文京区立第八中学校長
神保 道隆

第 70 回入学式の式辞

毎年、年度初めに発行する学校だよりの記事には、入学式の式辞を掲載しています。そこで、今年も昨日挙行了した第 70 回入学式の式辞を掲載します。

昨日は朝からあいにくの雨となり、やや肌寒くもあり、残念ながら、青空を背景に桜の花が美しく咲き誇っている入学式とはなりませんでしたが、それでも、緊張の面持ちで体育館に整列した 1 年生は、第八中学校での学校生活をスタートさせました。70 回という節目の新入生となった 1 年生のこれからの成長と活躍に期待しています。

満開の桜の花には無情の雨となってしまいましたが、根津神社のつつじはもうほころび始めています。春爛漫の本日、第八中学校に入学した 36 名の 1 年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんは、3 月 25 日、小学校を卒業しました。小学校では、最上級生として、下級生のよき先輩として、優しく頼れるお兄さんお姉さんとして活躍し、多くのことを学び、成長してきました。そして、小学校六年間の集大成として「旅立ちの日に」を大きな声で合唱しました。

「勇気を翼にこめて 希望の風にのり この広い大空に 夢をたくして」という歌詞のとおり、中学校に入学するに当たって、大きな夢や希望を胸に抱いてきたことでしょう。また、不安に思ったり、心細く思ったりしたことがあったかもしれません。

でも、安心してください。第八中学校には皆さんの入学を心待ちにしていた 2 年生と 3 年生がいます。皆さんの小学校時代の活躍に勝るとも劣らない頼れる上級生です。分からないことや困ったことがあったら、上級生に相談してください。難しい問題も、きっとすぐに解決できるはずです。

なぜなら、「One for all all for one ～一人一人が協力し合うために～」という生徒会本部が作ったスローガンを見れば分かります。この言葉は、ラグビーの世界でよく使われ、広く知られるようになったのですが、第八中学校の生徒は「一人はみんなのために、みんなは一人のために」協力し頑張ることができる生徒たちです。一日も早く「さわやか八中生」の一員になり、夢や希望の実現に近づくことができるように、皆さんも力を合わせて頑張りましょう。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。緊張して座っている 1 年生の胸には、中学校生活の夢や希望に一抹の不安が入り混じっていることと思います。しかし、これから始まる学校生活が不安を期待に変え、友人とふれあい、多くのことを学び、さまざまな体験を積み重ね、本校を卒業するときには、心身ともに大きな人間になって、「第八中学校での 3 年間はとても充実した 3 年間だった。」と思っただけのよう、教職員一同、お子様の教育に全力で取り組んでまいります。本校の教育活動に対するご理解とご協力を皆様からいただきながら、お子様の成長の糧となることをお約束いたします。3 年間、どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、ご来賓の皆様には、ご多用のところ、本校第70回入学式にご臨席を賜り、ありがとうございます。本日、中学生として歩み始めたばかりの36名の1年生を、地域とともに歩む第八中学校の一員として、温かく、優しく、そして厳しく見守り、支えていただきますようお願い申し上げ、式辞といたします。

平成28年4月7日

文京区立第八中学校長 神保道隆

また、校長式辞の後、ご祝辞をいただいたPTA会長も次のように1年生にエールを贈ってくださいました。

昨年行われたラグビーワールドカップでの日本代表の活躍（3勝1敗という好成績でも決勝トーナメントに進出できませんでしたが）を例に挙げて、代表に選ばれた選手たちはワールドカップに向けてしっかりと準備をしました。だから、どの試合でもハードワークに徹し、歴史的な勝利に結びつけることができたのです。中学校での3年間は大きく成長するときです。1年生は、いろいろなことにチャレンジして、大きく成長してください。1年生だけでなく、2年生、3年生も同じようにいろいろなことにチャレンジして頑張りましょう。

第八中学校の教職員やPTAの皆さんはもちろんのこと、入学式にご臨席くださった地域を代表するご来賓の方々も、1年生の入学を心からお祝いし、大きく成長することを願っているのです。

その期待に、1年生だけでなく、2年生・3年生も応えることができるように、毎日の授業をはじめとして委員会活動・部活動や学校行事にチャレンジしていきましょう。

4月6日の始業式の話

入学式の前日の始業式で、2年生・3年生に話したことも掲載します。

3月の卒業証書授与式の式辞の最後に紹介した、柳生但馬守宗矩が遺した「人は人のために生きる。」という言葉を変えて引用し、4月5日の帰宅時、山手線の車内であったことを話しました。

田端駅でドアが開き、目の不自由な方が乗車してきました。そのとき、ドアの右端にいてスマホを見ていた男性が、その方に「よかったら、こちらにどうぞ。」とさりげなく声をかけ、自分が立っていたところを譲りました。その方は「ありがとうございます。」と答えて手すりにつかまり、池袋駅で山手線を降りました。

分かってはいても、目の不自由な方に声をかけたり、ご高齢の方に席を譲ったりするのは、なかなか難しいものです。しかし、これが、柳生宗矩の言う「人は人のために生きる。」ということでしょう。言葉を換えて言えば、「思いやり」です。

いつも相手のことや相手の立場を考えて自然に行動することができるようになれば、学校生活はもっと過ごしやすく豊かになっていくはずです。今年度も、「人は人のために生きる。」という「思いやり」の心をもって学校生活を豊かなものにしていきましょう。

そのためにも、悩みごとや困ったことがあれば、先生たちに相談してください。皆さんと一緒に考え、解決していきましょう。